

令和4年度 尼崎理容美容専門学校 学校評価委員会

令和5年5月29日(月)

尼崎理容美容専門学校

学校関係者評価委員

- ・ 林 久博 : 尼崎市議会議員
- ・ 溝畑貴世子氏 : 保険会社勤務兼尼崎商工会議所 共済・福祉制度担当
- ・ 上部 幹男 : 元尼崎保健所職員
- ・ 鶴田 昂輝 : 本校卒業生、K.Tパームス勤務

学校評価にかかわる常勤の教職員

- ・ 半田 一朗 : 理事長
- ・ 鈴木 良子 : 学校長
- ・ 大脇 展子 : 教頭
- ・ 角野 義博 : 人事・総務部長
- ・ 節安 徹 : 事務長

評価項目ごとの関係者評価・意見

(1) 教育理念・目標

・ 学生自身がサロンへカットに行く際、これまでは単に一人のお客の立場で「こういうヘアスタイルにしてください」と伝えるだけだったのが、理美容学生として業界に足を踏み入れた今は、カットをしに行くにしても視点が変わってくるはず。2年後はそこで働いている自分を想像しないとイケない。そういうことも授業の合間、合間に伝えるようにしている。

・ 教育理念は毎年変化するものではない。そんな中、公衆衛生の観点で考えた際、平素の学校内での衛生管理の様子などを伺えば学校として十分に落とし込んでいるという印象を受ける。

・ ニーズというのが一つの問題。学校として社会ニーズをどう捉えて分析しているのか。例えば企業の採用担当の方がどういう学生を求めているのかなどの分析を行い、それをニーズとして落とし込んでいけば、それが学校の1つの方向性として出来上がるのではないか。それ以外の建学の精神や、公衆衛生に関しては問題はない。

(2) 学校運営

・ 学生さんたちが楽しく学生生活を送っているというのを客観的に感じる。それが一番だと思う。

・ 学校側からこうして欲しいという答えが欲しい。非常勤講師の私たちは普段学校にいないので…。もちろんいろんなアイデアは提供するが、学生の意識が私たちを向いていない状況も感じる中、「して欲しい、して欲しい」と要求だけ言われてもなかなか難しい。

・ 人生教育は別にして、何より国家試験を受けて合格させる、ということを念頭にして

いる。

- ・学校側と非常勤講師側の考えていることに微妙な温度差、意識の違い出てきていると感じる。「リモート授業をお願いします」と言われても、ノウハウがない。お任せされても難しい部分も正直にある。

- ・1年と2年で温度差があるというのは、カリキュラムの問題があるのではと感じている。

(3) 教育活動

- ・入学してから相モデルの授業が多く二人一組になってネイルやエステの授業を実施している。常に授業で言っているのは「私たちはお客様を相手にする仕事だから、友達同士だと思ってはいけない」ということ。常にお客様だと思って細かいところまで気を配り、お声掛けをしないといけない仕事だと指導している。また道具をキレイに並べる、キレイな仕事をしていくこともすごく大事。そのような意識づけをさせるよう徹底している。他の先生方にも同じような指導をしてもらいたい。

- ・大事だと思ったことは繰り返し、繰り返し伝えている。そうすることで前に聞いたということになる。繰り返し言うことは復習の意味合いでもある。3回も4回も同じ語句などが出てくる場合もある。それを繰り返す。

- ・学生の意識だけに頼るのではなく小テストを実施して提出してもらおう。

- ・選択科目として、アロマ、エステ、メイク、ネイル、アレンジヘアなどが学べて、勉強すれば資格を取得できるというのがすごく魅力。

- ・カリキュラムが変わっていく中で、ただ単に楽しいだけという段階から次の段階としての教育活動が今の課題になってきている。

- ・少し上の先輩から生の声として、学生時代にどんなことをしておけばいいのかなどのお話を聞く授業であったり、学生に寄り添うような授業をしていく必要性がある。

- ・リモート授業については一方通行になってはいけない。なので、小テストを回数実施して、成績評価を行う。回数を重ねるごとに懸命に取り組む学生が増えている。

(4) 学習成果

- ・資格を取得することで成功体感がついてくる。外部コンテストへ出場する学生たちはモチベーションもあるが、それ以外の学生たちのモチベーションを維持していくのが難しい。

- ・国家試験合格させることはもちろん大事だが、一番願うのは就職をして長くずっと業界で続く人材育成。最終的に自分のお店を持ち、卒業生として本校へリクルートに来てもらうという流れが出来上がって欲しい。

- ・授業や国家試験だけではない。どういことをこの2年間で磨いていけばいいのか。先輩を招き討論会や意見聴講会なども行う。そうすれば今、現場ではこういう人材を求めている、だから2年間でこういうことをしておけば身になるよ、などの声が直接聞けるような特別授業も必要。

- ・業界の人たちと接する中で、離職率が高い職種と感じる。厳しい業界に出ていく若者たちを預かっているのは大変だし、当然素晴らしいと思う。いろんな個性的な学生をまとめているのは、すごいなと感じる。

(5) 学生支援

- ・教職員それぞれ得手不得手がある。学生たちの表情を見ていれば分かる。担任が相談に乗るのが一番ふさわしいのか？ 改めて考え教職員全員で学生指導をしていく。
- ・学生たちが楽しそうに授業を学んでいる。いろんな資格を学べる、取得できると思って入学してきた。カリキュラムを変更して、より学びやすいように改良していくことで、マイナスな言葉を発することが少なくなった。例年なら「しんどい」「疲れた」などの言葉があるが、前向きに取り組んでいる学生たちを見ると、資格取得を目指して入学している学生たちが多いというのは良いと感じる。
- ・最終的には私たちのことでなく、学生1人1人のため。頑張っている学生はちゃんと評価してあげることが大切。それが国家試験合格につながっていく。
- ・入学後すぐ、または入学前教育の時間を使って、「あなたは何を学びたい？」などをグループディスカッションなり、個人カウンセリングなりで、もう一度、きちんと知っておくべき。
- ・今の学生たちは与えられ過ぎている部分もある。自分で答えを探すというのがすごく苦手。すぐに答えを聞いてくる。国家試験についてはどこから出題されるか分からない。自分で答えを探すということも大切。

(6) 教育環境

- ・社会変化対応、馬車から自動車の時代が変わったぐらいにここ数年、技術革新が行われている。本校も入学した学生たち全員に iPad を支給するようになった。そうした中でモラルを守りながら使用し、きちんと学習に使っているか…。これらまだまだクエスチョンな点もある。
- ・iPad などを使ってどう学びたい？ どんなことができればこれから理美容師になったときにお客様とのコミュニケーションツールになれると思う？ こういう話をしていくことが大切。
- ・私たちも教職員たちも新しいツールを効果的に使って学ばせ、また教えられているかというのと疑問でもある。
- ・静かな環境下で受けれるのでリモート授業に魅力を感じて入学してくる学生もいる。集団で授業を受けると中にはうるさくて集中できないという不安もあるので、数名はリモート授業が決め手という学生もいる。

(7) 学生の受け入れ募集

- ・外部の人間としても募集に関しての協力については惜しまない。

(8) 財務

- ・ 学生数もここ数年、確実に増えており、財務的に考えても安定している。

(9) 法令等の遵守

- ・ 特に問題なし。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・ 地域のイベント、ボランティア活動に学生も積極的に参加させている。今後もどんどんお声がけいただければご協力していきたい。
- ・ 尼崎の学校なので地元の方々に知っていただき、共にイベントを実施していければと思う。

全体評価

やる気に満ち溢れている学生もいれば、やる気のない学生も正直にいる。いろんな学生が入学してくるし、動機はそれぞれ違う。個性がすごい。

自己肯定感が低い学生も多い。「先生私も褒めてよ」という学生。そういう学生が増えている。褒めて欲しくて、認めて欲しくて、承認欲求が強い。そういう学生なので、うまく伝えていければ楽しく学校生活を送ってくれる。ダメなことも教えていけば、素直に聞いてくれる。褒めるときは褒める、ダメなことはダメだと言う。

本校はクラス担任制だが、リモート授業を好む学生は人とのかかわりが苦手だったりする。集団生活が苦手という学生も入学してくる。国家資格が欲しいということで、全員が全員、明るい学生ばかりではない。職員一同頭を悩ませながら、どうすればこの学生たちがきちんと卒業して、国家試験に合格するのか。働いていける人材になるのか。常日頃から、頭を悩ませながらやっている。すごく難しい部分もたくさんある。

そんな中でも学校として理念を掲げながら、それを基本として運営を進めていく。今後も幅広くいろんな意見をもらいながら、具体的にあり方、方向性を明確に示し、卒業生らもうまく登用、活用して、学校運営にまい進していく。